



図書館の来館者は増加も貸出冊数は横ばい

平成19年7月に開館した市中央図書館（伊藤文庫）の蔵書は、平成26年度末で22万9323冊となりました。年間来館者数は平成23年度に30万人を突破して以降、伸び悩んでいましたが、昨年度は38万8414人と過去最高となりました。

一方で年間貸出利用冊数は、平成20年度以降ほぼ横ばいに推移しており、近年は若干の減少傾向にあります。

レファレンスを活用して図書館で調べる

図書館には、本の貸し出しなどの業務の他に「レファレンスサービス」という、図書館司書が利用者の求めに応じて、情報や資料を検索したり、提供したり、回答したりするシステムがあります。

興味がある事柄について調べる際に、インターネットは手軽で大変便利ですが、情報の信ぴょう性、確実性では、本の方に一日の長があります。

図書館でどのように調べものをするか分からない場合は、図書館司書に相談ください。どのようなことを知りたいか伝えてもらえれば、知りたい情報にたどり着けるように本を探します。

中央図書館では、郷土の偉人や歴史に関する本も多くそろえています。



本の検索や予約もネットで簡単に

読みたい本が図書館やコミセンにあるか、貸出中かどうかを中央図書館のウェブサイト (<http://library.city.ena.lg.jp/>) で確認することができます。またウェブサイトから「利用者情報（マイページ）」に登録しておけば、貸出中の本をネットで予約することができます。予約した本は準備が出来次第、電子メールで案内します。

地域の図書館 コミュニティセンター

中央コミセンと中コミセンを除く市内11カ所のコミセンには図書室を備えており、一般書や児童書など、いろいろな本を取りそろえています。中央図書館で貸出中の人気の本も、コミセンですぐに借りられる場合もあります。

中央図書館と各コミセンは、定期的に本の配送をしており、中央図書館の本をコミセンで返したり、中央図書館の本をコミセンで予約して取り寄せたりすることもできます。

学を為す。故に書を読む。
な (言志録13条)

10月27日
～11月9日
読書週間

読書を習慣に

秋も深まり、読書に最適の季節を迎えました。市では郷土の先人、佐藤一斎の三学の精神を理念として、生涯学習のまちを目指した市民三学運動を推進しています。

「読書」は、市民三学運動を推進する上で重点的に取り組む柱の一つに位置付けられており、子どもから高齢者まで全ての市民が生涯にわたって学び続けることができるまちを目指しています。

市中央図書館は、市民の皆さんの読書活動を推進する拠点として、利用状況や社会情勢などを考慮しながら、学びの要求に応えられるよう資料をそろえています。

読書の秋、図書館を活用して読書を生活習慣の一部にしませんか。

□問い合わせ 市中央図書館 ☎25-5120



子どもと本をつなげる

生涯にわたって本に親しむためには、子どものころの読書習慣が大切です。乳幼児期から大人が本を読み聞かせすることで言葉の覚え、豊かな感情が芽生え、本が好きになります。そのきっかけづくりとして、図書館では週2回、サポーターの協力を得て「おはなし会」を開催しています。

また館内には児童室やおはなしの部屋を設け、絵本や児童書などを多く取りそろえ、蔵書の約3割を子どもが占めるなど、小さなお子さんやお子さん連れの方も利用しやすい図書館を心掛けています。

壊れても仏像 文化財修復のはなし

飯泉太子宗／著
白水社 <718-キ>



著者は仏像修復をなりわいにしています。けれど、仏像とひと言で言っても種類はさまざま。壊れ方によって修復の仕方も違う。そんな修復の苦労話や仏像の基本知識などが分かりやすく書かれています。奥が深く、後世に残るこだわりの仕事、それが仏像修復です！ 仏像を正面からだけでなく、作者や造られた年代を気にして拝観したくなります。



推薦した司書
遠山嘉奈子

●得意なレファレンス
児童書、芸術・美術

イーダ 美しい化石 になった小さなサル のものがたり

ヨルン・フルム／文
創元社 <K457-フ>



ドイツのメッセルで、4,700万年前の霊長類と思われる化石が見つかりました。骨折の痕や、胃の内容物まで分かるほど美しい化石です。「イーダ」と名付けられたこの化石、何を食べ、どこで眠り、どう生きていたのか…。化石から分かった情報を基に、イーダの生きていたころの環境や生活ぶりを美しいイラストで物語風に描いています。最新の化石研究法も分かります。



推薦した司書
安江恵

●得意なレファレンス
児童書（学校図書館）

世界を変える オシゴト

マリー・ソー／キャロル・
チャウ／著
講談社 <586.8-ソ>



ハーバード大学ケネディスクールで出会った2人の女性。深刻な貧困問題を抱えるチベット族の生活を変えるべくゼロからビジネスを立ち上げます。地域の人々が一時的ではなく、継続的に収入を得ていくためにはどうすればいいのか。女性ならではの柔らかな発想と2人の行動力は本当にすごい！ “楽しみながら働く”理想の姿です。



推薦した司書
土方明日香

●得意なレファレンス
料理・手芸関係

夜のサーカス

エリン・モーゲンスターン／著
早川書房 <933.7-モ>



夜だけ開く幻想的なサーカス。その裏では、ひそかに熾烈な闘いが繰り広げられていた。若き魔術師シーリアとマルコは、ライバル関係にあった魔術師に幼いころから教育され、競い合い（ゲーム）を運命づけられてきた。そんな2人がある興行師がサーカスを企画するために集め、さまざまな人の運命を巻き込んで、ゲームが進んでいく…。



推薦した司書
田中雄一郎

●得意なレファレンス
パソコン関係

だいじょうぶ だいじょうぶ

いとうひろし／作・絵
講談社 <E/イ>



ぼくはおじいちゃんと毎日散歩をする。しかし、その散歩は楽しいことばかりではなく、困った事や怖い事にも出会うように。そんな時おじいちゃんは「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と繰り返します。

不安な時に「大丈夫だよ」と言われて心強くなった経験は誰にでもあるはず。「大丈夫」という言葉の力をあらためて感じる一冊です。



推薦した司書
澤田さやか

●得意なレファレンス
絵本、語学

ルリユール

村山早紀／著
ポプラ社 <913-ム>



坂の上にある謎の洋館には、七匹の黒猫と真っ赤な髪の美しい女性がいました。彼女は「ルリユール」。洋館に工房を構え、ボロボロになった本の修復や、特別な手作りの本を作ったりする仕事を請け負っています。天使のような、魔法使いのような彼女。その魔法のような手業によってよみがえる本と、本を愛する人たちが織り成す、温かく不思議な物語です。



推薦した司書
橋野真彩

●得意なレファレンス
児童書、ティーンズ

メダカ色の ラブレター

岩井光子／著
風媒社 <487.7/イ>



著者岩井さんは恵那出身。ひと言で言うところ“メダカへの愛が大きい人”。「冬は鉢に毛布を掛ける」「メダカたちに名前を付ける」「情操教育として自分の歌を聴かせる」…。岩井さんが“愛メダカ”たちのためにしていることの数々。

彼女のメダカへの愛を読んでいるだけで、不思議とメダカがかわいく思えてしまう1冊。



推薦した司書
宮地志保

●得意なレファレンス
郷土

水曜日の本屋さん

シルヴィ・ネーマン／文
オリヴィエ・タレック／絵
光村教育図書 <E/タ>



水曜日は学校がお休み。「私」はいつも本屋さんへ出掛けます。すると、必ずあるおじいさんに出会います。おじいさんは同じ分厚い本を少しずつ読んでいるようです。クリスマスの3日前、おじいさんがいつもの本を探しますが、見当たりません…。

温かい気持ちになれる絵本です。



推薦した司書
市岡理恵

●得意なレファレンス
絵本、農業・園芸